

瀋陽だより

2015年12月

報告者：東北育才学校
高井 奈央子

瀋陽日本人学校

「海外で働く」とは何を意味するのでしょうか？私のように身軽な独身者であれば、それは違う世界を経験することだとシンプルに考えることができます。しかし、家族を伴って海外で働くとなれば話は違ってきます。子どもたちの教育をどうするのかという問題が発生するからです。

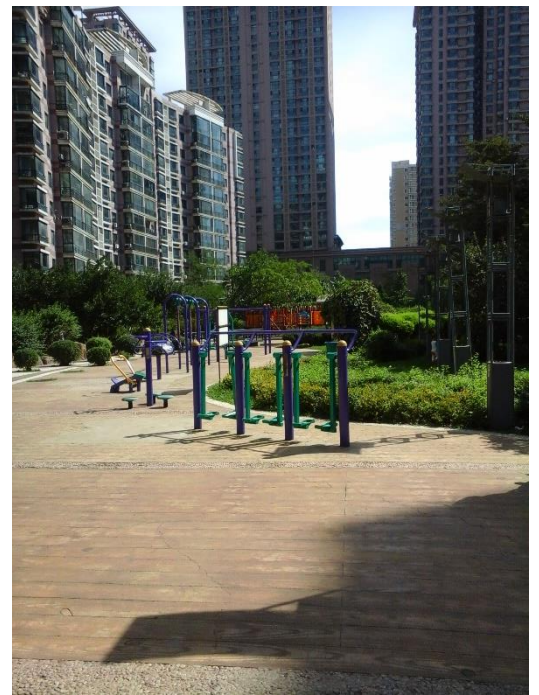
東北育才学校の国際部には、両親が日本などの中国国外から赴任してきている子どもたちも通っています。国際部では週に2、3時間程度、母語である日本語を習うことができますが、それだけでは不安を感じる保護者もいます。まして、数年後には日本に帰国し、子どもたちが日本の学校に通うことが分かっている場合はなおさらです。

瀋陽日本人学校では、毎週土曜日の午前中、小中学生を対象に国語と算数を教え、帰国時に日本の学校にスムーズになじめるよう、サポートしています。

瀋陽日本人学校は右写真^{ちおうかえん}「地王花園」という地元では有名なマンションにあります。実は正式な団体ではありません。中国では、外国人が団体を結成するという事に様々な規制があるらしく、現在公式に認められているのは北京の日本人学校のみで、瀋陽日本人学校は公認されないが取り締まりもされないというグレーゾーンに存在しています。そのため、資金を管理するにも個人名で銀行口座を作らなければならないようです。

オートロックの門を開けてもらって中に入ると、高層マンションとレクリエーション用の広場が広がっています。休み時間になると、子どもたちは広場の遊具で遊んだり、学校の中にある日本語の本を読んだりしています。

基本的に、算数は中国の方が難しい内容をやっているのので、文章問題を中心に解説をします。また国語は日本の教科書を使って、漢字の書き取りや文章の読解を指導しています。理科と社会はこの学校ではフォローしていません。夏休みや春節の休みに一時帰国した際、日本のドリルなどを購入して自学自習しているという子どももおり、話を聞いてみると、やはり本人も一抹の不安を感じているようです。





グローバル化の進展に伴い、中国における日本人の人数や企業の在り方も変化してきています。当然その変化は日本人学校にも影響を及ぼしています。

まず、人数の変化です。大体十数名程度で推移していますが、徐々に減ってきています。日本企業の方針として、これからは日本人を中国に派遣するのではなく、日本語ができる中国人を採用するというやり方に切り替えてきていることが影響しているものと思われます。

また、設立当初は「日本語が母語で数年後には帰国する」ということが大前提だったのですが、最近「国籍は日本だが、母語は中国語で日本語は少しかできない」という子どもも増えてきています。日本人学校のコンセプトは「日本語で日本の教科書を用いて教える」ことなのですが、今のところ、日本人学校では「中国語で日本の教科書を教える」ことはしていないため、現状にそぐわなくなってきました。しかし、本来であれば日本国籍を持つ子どもは全て受け入れなければならないので、校長先生も、日本語を母語とする生徒と反比例して増えている日本語ができない入学希望者にどう対応するのか、頭を悩ませていらっしゃいます。

瀋陽日本人学校は生徒が少ない分、教える時は教員1人が生徒2、3人を担当するという少人数教育になるというのが良い点です。また、同じマンションで小学校1年から中学3年までが一緒に勉強しているので、休み時間になると小学生の男の子たちは、中学生の「お兄さんたち」と遊んでいます。これも今の日本ではなかなかできない経験なのではないかと思います。

瀋陽日本人学校は、保護者の方々が資金管理とマンションのセキュリティ当番を担当して下さってはじめて成立します。母語ではない環境で育つ子どもたちが、不利になることの無いよう配慮することもまた大人の役割です。

瀋陽日本人会 クリスマス会

12月20日（日）、太原街にあるホテルで、日本人会主催のクリスマス会が行われました。大連は外国人が多く暮らす街ですが、瀋陽で日本人に出会うことはほとんどありません。しかし、いざ集まってみるとこんなにもたくさんの日本人が暮らしていたのかと驚いてしまいました。協賛企業の一覧を見ると、今まで気づかなかった日系企業の名前がずらりと並んでいました。

この日、日本人学校の子どもたちはステージで歌とリコーダーの演奏を披露しました。補習学校で約1か月かけて練習を重ねてきたものの、リハーサルの時は歌声が小さく、会場の後ろまで届かないことに大人たちは気をもんでいました。しかし本番は元気一杯の大きな歌声を響かせ、その変化に校長先生も驚きを隠せない様子でした。子どもたちが本番に発揮する力は、時に大人の予想を飛び越えてくれます。発表の後、子どもたちは保護者と合流してクリスマス会を楽しんでいました。



この会では、序盤にサンタのコスチュームに身を包んだ大人たちが、子どもたちにプレゼントを配ります。子どもたちは嬉しそうに包みを開けて、中身を両親に報告して笑っていました。そして中盤からは大人たちが余興（演劇とマジックショー）で大いに会場を沸かせていました。

この会の目玉は、最後に行われるプレゼント抽選会です。大人を対象にしたクリスマスプレゼントということでしょう。一番の注目は全日空提供の瀋陽―成田往復航空券。3月までしか瀋陽にいない私には興味のない商品でしたが、周囲の方は一様にこの航空券が当たるように念じていらっしゃいました。その他にもiPadやテレビ、美顔器など高価な品物がステージに並び、会場の視線を集めていました。

私は幼いころからくじ運がないので、もちろん皆が狙うような高価な品を当てることはできませんでしたが、ビオレの洗顔フォームを引き当てたことだけでも満足しています。3月までに必ず使い切るであろう消耗品です。実用的なクリスマスプレゼントを貰い、帰途につきました。

中国ライフ



★ありがとう久光デパート

11月の下旬、たまたま領事館の方とお話していた時、ふと話題になったのが中街にある日系デパート「久光」です。宿舎から地下鉄で4駅、ここに行けば、かなり高価ではありますが、日本の醤油や味噌、納豆を手に入れることができます。上の写真からも分かるとおり、日本風の弁当や総菜も販売されています。私もたまにこの食品フロアで買い物をしていたのですが、その久光が11月いっぱいまで閉店するというお話でした。

テナントに閉店の連絡がいったのが11月中旬、閉店が11月末日と、日本では考えられないようなスピード撤退です。慌てて休日に久光まで出かけてみたものの、既に手遅れで、商品棚はほとんど空になり、既に撤退しているテナントもいくつかありました。仕方がないので、辛うじて残っていた味噌とポン酢を購入しました。任期もあと数か月なのでおそらく大丈夫だと思います。

確かに他の中国系デパートと比較すると、客の数が少なく、日系のテナントも次々と撤退していたので心配はしていたのですが、開店してから2年程度で閉店するとは思いませんでした。

店内に入れば、その雰囲気から閉店するのだなということは分かるのですが、中にも外にも「閉店」に関する情報は何もありませんでした。偶然この話を聞くことがなければ、「ある日来てみたら閉店していた」という状態になっていたでしょう。

同じく中街にある日系企業ヤマダ電機は相変わらず営業しています。こちらについてはまだ何の情報も得ていませんが、ぜひ頑張ってこの地で営業を続けてほしいと思います。

瀋陽にはもう一か所「万象城」^{まんしょうじょう}という高級デパートがあり、そこでも日本の食材を購入することができます。私の宿舎からは地下鉄を乗り継いでいかなければならないので、久光デパートへ行くよりも手間がかかるのですが、まだそこが営業を続けていることを幸運だと思うしかありません。